

会長企画シンポジウム

⌚ 2025年7月10日(木) 8:30 ~ 10:00 🏢 第1会場 (文化会館棟 1F 大ホール)

会長企画シンポジウム1 (I-PSY1)**小児循環器学、医療、保健の未来を紡ぐ：New Paradigm, Networking and Inclusiveness for Children and Beyond**

座長：三谷 義英 (三重大学医学部附属病院 周産母子センター)

座長：山岸 敬幸 (東京都立小児総合医療センター)

[I-PSY1-1]

心臓病者のライフステージにおける願いと社会保障制度の課題～生活実態アンケート調査2023から～

○下堂前 亨 (一般社団法人全国心臓病の子どもを守る会)

[I-PSY1-2]

成育・循環器病対策基本法の成立：小児（成育）循環器医療への実装に向けて

○山岸 敬幸 (東京都立小児総合医療センター)

[I-PSY1-3]

母子保健行政の最近の動向について

○木庭 愛 (こども家庭庁 成育局 母子保健課)

[I-PSY1-4]

AWSが目指すSociety 5.0～未来型ヘルスケアエコシステム～

○大場 弘之 (アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社 パブリックセクター ヘルスケア事業本部)

[I-PSY1-5]

心音×AI：学校心臓検診における聴診DXの可能性と社会実装

○小川 晋平, 植田 由依, 石川 仁太郎, 齊藤 旬平 (AMI株式会社)

会長企画シンポジウム

📅 2025年7月10日(木) 8:30 ~ 10:00 🏢 第1会場 (文化会館棟 1F 大ホール)

会長企画シンポジウム1 (I-PSY1)

小児循環器学、医療、保健の未来を紡ぐ：New Paradigm, Networking and Inclusiveness for Children and Beyond

座長：三谷 義英 (三重大学医学部附属病院 周産母子センター)

座長：山岸 敬幸 (東京都立小児総合医療センター)

[I-PSY1-1] 心臓病者のライフステージにおける願いと社会保障制度の課題～生活実態アンケート調査2023から～

○下堂前 亨 (一般社団法人全国心臓病の子どもを守る会)

キーワード：生活、福祉、社会保障

全国心臓病の子どもを守る会は小児期に発症した心疾患の患者と家族の会である。1963年の設立当初は、適切な治療を受けられるような経済的負担や不安の軽減といったことが中心的な課題であった。その後、医療体制と公的医療保険、公的医療費助成の法整備などが進んだことで、会の取り組む課題は、学校生活、就労、経済的自立といった生活面での課題へと多岐に広まっている。2023年に心臓病児者と家族のための福祉・社会保障制度が十分に機能しているのかを知るために、全会員を対象に生活実態アンケート調査を厚労科研究班（研究代表者・檜垣高史）からの協力を得て行った。アンケートには581件の回答を得た。その結果、アンケートの自由記述欄「不安に思っていること」からは、ライフステージの節目ごとの課題が明らかになった。○乳幼児期：治療の選択、医療費、治療生活と親の就労の両立への不安が多く寄せられた。また、「学校に通えるのか」「どの学校を選択するのか」といった就学についての課題が見受けられた。○学齢期：進学や働くといったことへの不安を抱えている様子がうかがえた。また、成人後の通院先の検討、医療費への公的助成が途切れることへの不安もあった。○成人期：就労や経済的不安の声が多く見受けられた。30歳代以降は、低下する体力と体調への不安、それにともなう就労の問題が訴えられている。○すべての世代を通じて：体調と医療費への不安は生涯にわたっていた。また、経済的な問題や先の生活への不安を常に抱き生活を送っている様子がわかった。先天性心疾患患者が安心して生活が送れるように、小児から成人への切れ目のない福祉と社会保障制度の充実が望まれている。そのための、具体的な法制度等の改善に向けた患者・家族の願いを述べていきたい。

会長企画シンポジウム

📅 2025年7月10日(木) 8:30 ~ 10:00 📍 第1会場 (文化会館棟 1F 大ホール)

会長企画シンポジウム1 (I-PSY1)

小児循環器学、医療、保健の未来を紡ぐ：New Paradigm, Networking and Inclusiveness for Children and Beyond

座長：三谷 義英 (三重大学医学部附属病院 周産母子センター)

座長：山岸 敬幸 (東京都立小児総合医療センター)

[I-PSY1-2] 成育・循環器病対策基本法の成立：小児（成育）循環器医療への実装に向けて

○山岸 敬幸 (東京都立小児総合医療センター)

キーワード：先天性心疾患、成人先天性心疾患、移行医療

2018年に成立した成育基本法、ならびに2019年の循環器病対策基本法は、ライフステージに応じて一貫した医療体制の構築を目指し、先天性心疾患を含む小児（成育）循環器疾患のシームレスな包括的支援を国の責務と位置付けている。こうした法整備を受け、全国的に小児・成人先天性心疾患の診療体制の整備が進められ、多くの課題が明らかになっている。第一に、患者・家族の生活支援や医療・教育・福祉を統合的に支える「総合支援センター」における本領域の整備と機能強化が急務である。診療と社会的支援の橋渡しとなるこの機能は、特に慢性経過をたどり、成人期への移行が必要な小児（成育）循環器疾患において不可欠である。第二に、先天性心疾患の手術施設の集約化（地域拠点化）を進めるうえでは、医療の質向上と同時に各地域に特有の事情への配慮が求められる。外科治療の集約化は、経験の蓄積やチーム医療の強化に寄与する一方、連携医療機関の役割や紹介体制の再構築、および次世代の育成が課題となる。第三に、成人期への円滑な移行医療を進めるうえで、小児科と成人科の連携は未だ十分とはいえず、専門医の育成や制度設計、患者・家族への啓発が必要である。特に、思春期・若年成人期における移行医療では、医療途絶のリスクが高く、継続的管理体制の充実と共に、ドロップアウト症例に対する循環器内科医の一層の対応が求められる時代になる。今後、すべての小児（成育）循環器疾患患者が安心して医療を受けられる社会の実現のために、法律を現場の実効性ある施策に落とし込むと同時に、診療・支援・教育の一体的な連携体制の整備が必要である。

会長企画シンポジウム

📅 2025年7月10日(木) 8:30 ~ 10:00 📍 第1会場 (文化会館棟 1F 大ホール)

会長企画シンポジウム1 (I-PSY1)

小児循環器学、医療、保健の未来を紡ぐ：New Paradigm, Networking and Inclusiveness for Children and Beyond

座長：三谷 義英 (三重大学医学部附属病院 周産母子センター)

座長：山岸 敬幸 (東京都立小児総合医療センター)

[I-PSY1-3] 母子保健行政の最近の動向について

○木庭 愛 (こども家庭庁 成育局 母子保健課)

キーワード：こども家庭庁、成育基本法、母子保健デジタル化

全てのこどもが健やかに成長でき、その権利が擁護され、将来にわたって幸せに生活することができる「こどもまんなか社会」の実現を目指し、令和5年4月に、政府全体のこども関連政策の司令塔として「こども家庭庁」が創設されてから2年が経過した。この間、令和5年12月に、こども基本法に基づく初めての「こども大綱」、そして、これまでとは次元の異なる少子化対策を進めるための「こども未来戦略」が閣議決定されるとともに、これらの政策を具体化・制度化するために、「子ども・子育て支援法等」が令和6年6月に改正された。母子保健分野においても、成育医療等基本方針等を踏まえ、保健・医療・福祉・教育などの幅広い分野との相互連携を図りつつ、次世代を担う成育過程にあるこどもの心身の健やかな成育が確保されるよう、科学的知見に基づく適切な成育医療等の提供に関する施策を推進することとしている。これまで、妊娠期や産後・子育て期を含めた様々なライフステージにおける切れ目のない支援を充実させるため、産後ケア事業の体制整備や乳幼児健診の充実など、自治体や関係者の協力を得ながら、様々な取組が進められてきた。乳幼児健診においては、先天性疾患のスクリーニング等を行う1か月児健診と発達障害のスクリーニングを主目的とする5歳児健診の支援事業が、令和5年度補正予算で創設された。また、母子保健のデジタル化も今後の主要な課題の一つである。乳幼児健診等について、住民、自治体、医療機関等の間で、情報を効率的に共有・連携できるよう、情報連携基盤（Public Medical Hub: PMH）を整備するとともに、これを活用した母子健康手帳の電子化に向けた検討も進めており、将来的に、全国で体制が整備されれば、国民にとって大きな利便性向上の効果が見込まれる。この機会に、母子保健のデジタル化に向けた検討状況を含め、母子保健行政の最近の動向について概説する。

会長企画シンポジウム

📅 2025年7月10日(木) 8:30 ~ 10:00 📍 第1会場 (文化会館棟 1F 大ホール)

会長企画シンポジウム1 (I-PSY1)

小児循環器学、医療、保健の未来を紡ぐ：New Paradigm, Networking and Inclusiveness for Children and Beyond

座長：三谷 義英 (三重大学医学部附属病院 周産母子センター)

座長：山岸 敬幸 (東京都立小児総合医療センター)

[I-PSY1-4] AWSが目指すSociety 5.0～未来型ヘルスケアエコシステム～

○大場 弘之 (アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社 パブリックセクター ヘルスケア事業本部)

キーワード：AWS、クラウド、AI

Amazon Web Services (AWS)は、245 の国と地域で幅広く採用されているクラウドコンピューティングサービスで、200 を超えるサービスを提供している。ヘルスケア領域も含む、何百万ものお客様が AWS を使用してイノベーションを加速させている。本講演では、AWSとSociety 5.0の融合がもたらす未来型ヘルスケアエコシステムの可能性について言及する。Society 5.0が提唱する超スマート社会の実現に向けて、ヘルスケア分野においてもデジタル技術の活用が不可欠となっている。AWSのクラウドサービスを基盤とし、IoT、AI、ビッグデータ解析などの先端技術を統合することで、従来の医療サービスの枠を超えた新たなヘルスケアエコシステムの構築が可能となる。特に注目を集めているAIについて、AWSのクラウドサービスと生成AIを活用することによる課題解決方法の例を示す。また、生成AIの本格的な活用においては、病院および研究機関内のデータを利用することが求められる。そのため、責任あるAIや、活用するデータのプライバシー・セキュリティの考慮が重要になっている。クラウド技術を活用した、データの安全管理、データの処理方法、医療機関との連携についても提示する。具体的なユースケースや先進的な取り組み事例を紹介することで、未来型ヘルスケアエコシステムへの変革の現在地を示すことができると考えている。

会長企画シンポジウム

📅 2025年7月10日(木) 8:30 ~ 10:00 📍 第1会場 (文化会館棟 1F 大ホール)

会長企画シンポジウム1 (I-PSY1)

小児循環器学、医療、保健の未来を紡ぐ：New Paradigm, Networking and Inclusiveness for Children and Beyond

座長：三谷 義英 (三重大学医学部附属病院 周産母子センター)

座長：山岸 敬幸 (東京都立小児総合医療センター)

[I-PSY1-5] 心音×AI：学校心臓検診における聴診DXの可能性と社会実装

○小川 晋平, 植田 由依, 石川 仁太郎, 齊藤 旬平 (AMI株式会社)

キーワード：聴診、先天性心疾患、学校心臓検診

近年、医療DXの波は学校心臓検診にも及び、2024年11月には、関連6学会より「学校心臓検診のデジタル化に関する提言」が発表され、将来像として「地域における検診の質の標準化」「AIを含むICTの導入」「病診・学校間連携の強化」などが掲げられました。さらに、2025年3月に策定された「学校心臓検診ガイドライン」フォーカスアップデート版においても、学校心臓検診DXの方向性が明記され、実装フェーズに向けた道筋が整いつつあります。法制度のもとで実施されている学校心臓検診は世界にも誇るべき日本独自の制度ですが、DXの推進により、検診の精度と標準化が一層進み、さらにそこで得られるデータが有効に活用されれば、将来的に大きな情報発信源となる可能性があります。

その中で注目されるのが、聴診のデジタル化です。聴診器の誕生から200年以上が経過した今でも、聴診によるスクリーニングの重要性は変わりませんが、聴診は医師の診療技術や周囲の環境に大きく依存し、結果の再確認や客観的な評価が困難です。また、将来的なビッグデータ活用の観点からも、デジタル化された心音データに比べて情報量に限界があります。AMI株式会社は、2015年に設立された医療系研究開発型スタートアップであり、「心電・音質・可視化」をテーマに8年以上にわたる研究開発を続け、心音図検査装置「AMI-SSS01」シリーズは薬事承認を取得しています。また、AIを活用した成人弁膜症・心不全向けの遠隔医療支援システム「クラウド超診」も展開中です。心音×AIという新たな挑戦は、小児の心疾患や不整脈の早期発見への展開も期待されています。

本シンポジウムでは、AI医療機器スタートアップの立場から、心音のデジタル化がもたらす未来型検診の可能性を考察し、「超聴診器」の社会実装に向けた展望を共有する場としたいと考えています。

